



しおかぜ通信

八代市立郡築小学校
校長 村嶋 博史



学校教育目標「自ら学ぶ子供」

R7,11,4 No.25

郡築小ホームページ

子供に「やる気や忍耐力（我慢する力）」を育てる方法について

現代社会では、様々な情報が錯綜し何が正解か分からなくなったり、デジタル化やAIの進化、グローバル化などにより劇的な変化がみられます。そんな中で、これからの子供たちに求められるのは、「自ら学ぶ姿勢」（主体性）だと思っています。そして、それは「うまくいかないときにも投げ出さない力」、すなわち自己コントロール力（やる気や忍耐力など）」と共に育つものと思っています。

この「非認知能力」の一つである「やる気や忍耐力（我慢する力）」を育てる大人の関わり方についてご紹介したいと思います。子育てのヒントになれば幸いです。

子供に「やる気や忍耐力（我慢する力）」を育てるには、それを強要するのではなく、子供の気持ちを尊重しながら、自己コントロール力を養う機会を多く与えることが大切だと思います。そして、それは「子供の選ぶ体験を増やす」、「感情を言葉で代弁する」、「待つ練習を遊びで取り入れる」、「失敗しても大丈夫と安心感を与える」、「大人がお手本を見せる」ことで育つと思います。



子供の選ぶ体験を増やす

「ゲームと勉強はどっちを先にするの?」や「今日はどんな服を着たがいいと思う?」、「同じ失敗をしないためにはどうしたらいいと思う?」など、普段から子供自身に選ばせるようにすることで、子供は最後までやり遂げる力を身に付けるものです。それは、「自分で決めたことをちゃんとやったね」などと、子供が自分で決めたことをやり遂げたときに褒めることで強化されます。

気持ちに寄り添うコミュニケーション

子供が喜怒哀楽を大きく表したときは、「うれしかったんだね」、「悔しかったんだね」、「悲しかったんだね」などと、子供の気持ちを代弁することで、子供は自分の感情を理解してもらえたと感じ、安心感を覚えるものです。また、我慢が必要な状況で、頭ごなしに「我慢しなさい」と言うのではなく、「今、なぜ我慢する必要があるのか」を分かり易く伝えることで、子供は納得し改めようとするものです。

待つ練習を遊びで取り入れる

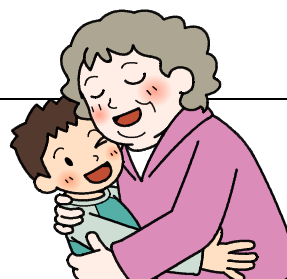
将棋やオセロ、トランプなど、自分の順番まで待たなければいけない遊びをしたり、遊びを通して負けて悔しい経験をさせたりすることで、子供は感情（自己）をコントロールする練習をするものです。また、子供の要求に対して、すぐに叶えるのではなく、「それは〇〇の後でね」と具体的に伝え、それを守ったら褒めることで、子供は「待つ」大切さを覚えるものです。

失敗しても大丈夫と安心感を与える

「どうして失敗したの?」と叱るのではなく、「どうしたらうまくいかな?」と一緒に考えたり、結果だけでなく、「最後までよく頑張ったね」と挑戦したことを褒めたりすることで、子供はチャレンジすることの大切さを感じ、前向きな姿勢をもつようになるものです。

大人がお手本を見せる

大人がいつもイライラしていると、子供は急かされていると感じて焦ってしまい、親がいつも穏やかな態度でいると、子どもは落ち着いて物事に取り組むようになるものです。子供が話しかけてきたら、忙しいときでも、いったん手を止めて最後まで聞くことで、子供は安心感と自己肯定感を得るものです。



もちろん、こういう関わりをしたからといって、すぐに「やる気や忍耐力（我慢する力）」（＝自己コントロール力）が身につくものではありません。お子様の年齢や実態に合わせて、できそうなことから少しずつ試してみられてください。